

小樽南ロータリークラブ会報



世界に希望を生み出そう



2023-2024 年度 R I 第 2 5 1 0 地区目標

1. クラブの戦略計画を打ち立て、会員増強を実現しよう
2. ポリオデーに参加しよう
3. 地域に根ざした青年奉仕を充実させよう
4. オンリーワンチャレンジを見つけよう

My Rotary
2510地区ホームページ
ICT委員会 Facebook
各委員会へのメール



重点項目

女性会員比率10%達成
ローターアクトの推進
心の健康(メンタルヘルス)づくりを目指す

- 例会場：オーセントホテル小樽 ● 例会日：毎週金曜日 12 時 30 分
- 事務局：〒047-0032小樽市稲穂2-15-1 (オーセントホテル内) TEL.0134-27-8100
- Club Homepage：URL <https://rid2510.org/otarusouth/>

1960年創立
昭和35年2月5日

2024年2月23日発行
通巻第3042号

26

今週 2月23日
● 3クラブ合同例会

来週 3月1日
● 通常例会

再来週 3月8日
● 通常例会

■ファイヤーサイドミーティング(炉辺会)

■ロータリーソング【奉仕の理想】

■会長挨拶【三栖会長】



皆さんおばんです。クラッセさんでこういった形の夜間例会というを私もあんまり記憶はないんですよ。期末とかそういう時にはやりますけれども、後から桂親睦委員長の方からファイヤーミーティングの趣旨説明はあるとは思いますが、お酒を取りながら少しこれからの南クラブとしての方向性なりを探り出したいなという新しい試みなので、皆さん

その辺闊達なご意見をお願いします。

先ほど中山例会委員長と話していたんですけど、若干ちょっと若い人が足りないから、これは私たち執行部の責任かなと思ってます。今日は一つよろしく願いいたします。

■米山奨学生 陳 秋梅さんへ奨学金贈与



学校の方では、皆様からの寄付のおかげで私の研究データが順調に収集されて、2月頭ぐらいに重ねて添削した論文をようやく出しました。次に、就活ではこの前内定をもらった観光会社に1日インターンシップに行きました。分からないことが多いですが頑張るしかないです。

最後ですが、4月から社会人になる前に今までの暇な時間を利用して日本で行ったことがないところに旅行に行きたいと思えます。以上になりますが、引き続きよろしく願いいたします。

■趣旨説明【桂会員親睦委員長】

今日はファイヤーサイドミーティングということで、炉辺会という形になります。もう皆さんベテランが多いので、炉辺会っていうのは大体分かると思うんですけども、村の長老が囲炉裏を囲みながら、若い衆に村のいろいろなことをお話をし、そこでいろいろな伝統を受け



継いでいくという非常に重要な会合というのがこの炉辺会という形になります。

私も RLI に出席したら結構他のクラブはこの炉辺会っていうのをやっているんですよ。私が入会した10年前ぐらいにいただいた記憶があります。ただ、コロナがあって、いろんな部分で最近、そういったのが少しずつ少なくなってきたということで、何かできないかということで、三栖会長の方からは是非炉辺会をやりたい、大勢でわいわいお酒を飲みながら色々なことを話したいなということで、今回の開催に至っております。

ただ、先程会長からもありました通りですね。肝心の若い衆があまり出席が少ないということですね。周りを見てもですね。ベテランばかりということではなかなか難しいですけど、ちょっと毛色を変えて RLI 方式です。色々なグループミーティング的にやろうかということになりました。

会合になると、アルコールが入っていないので口がちょっと固くなるんですけども、若干アルコール入って口が軽くなるような形でクラブの現状ざっくりばらんにお酒を飲みながら少しお話をさせていただきたいなと思います。本日の長老役と言いますかですね。齋田会員にお願いしてございます。

まず、齋田会員から口火を切っていただいて、それを着て各テーブルでまたベテランの方に色々なお話を聞いていくという流れです。1部2部という形で、まず1部は色々な会合、年齢や異なる会員同士とやりますけども、ロータリー歴があっても年齢大して変わらないよって意見が出ていたんで、その部分も含めてざっくりばらんにお話ししていただきたいなと思います。その後、これからの小樽南ロータリークラブについてミーティングができればなと思います。よろしく願いいたします。

■ロータリーの歴史と心得についての講話

【齋田会員】



私が小樽南ロータリークラブに入会したのは1985年、水天宮の駒木宮司の強い推薦があったためです。入会当初から、親睦委員会でサンタクロースを演じるなど、様々な活動に携わりました。1986年から87年の出席委員会に配属され、そこで形成された親睦グループは、私にとって大切なコミュニティでした。会員増強委員会では、佐藤公亮委員長のもとで、クラブの適切な会員数を考慮しながら、質の高い増強を目指しました。

クラブの創立は1960年2月5日に22名のチャーターメンバーによって行われ、その年には既に37名の会員増強がありました。私がクラブに入会した当時は、すでに創立から25年が経過しており、その間に多くの歴史が刻まれていました。私自身、入会以来39年が経過し、来年で40年を迎えるにあたり、多くの変遷と成長を経験してきました。クラブにおける私の役割は多岐にわたり、親睦委員会、出席委員会、会員増強委員会など、様々なポジションで貢献してきました。

私がクラブに入会した理由は、単に友人の勧めだけでなく、当時JCの現役理事長としての責任感と、地域社会に対する献身的な活動への意欲からでした。小樽南ロータリークラブ活動を通じて、多くの先輩後輩との交流の中で学び、成長する機会を得ました。これらの経験は私にとってのロータリーの精神を形成する基盤となりました。

今回のファイヤーサイドミーティングで、私は皆さんとロータリークラブの心得や歴史について議論するために招かれました。私たちのクラブの始まりから現在に至るまでの歴史を振り返り、創立時のこと、その後の発展、そして今日に至るまでの成長と、私たちがコミュニティにどのような影響を与えてきたかを共有したいと思います。

資料には、小樽クラブ主導の下での出発点やチャーターメンバーの情報が含まれており、これらは私たちのクラブが現在に至るまでの道のりを物語っています。

私はこの話を通じて、ロータリークラブとは何を意味するのか、私たちがどのように活動に取り組んできたのか、そしてロータリーが私にとってどのような価値を持つのかを表現したいと考えています。

39年に及ぶ私のロータリーでの経験は、個々の活動を越えた共有の価値をもたらしました。私の話は、それぞれのメンバーが小樽南ロータリークラブに貢献することで、どのようにしてロータリーの理念が生き続けるかを示す一例です。

私たちのクラブが過去に築いてきた基盤の上に、どのようにして新たな歴史を紡ぎ、未来に向けて貢献していくかを皆さんと共有していきたいと思います。私たちの経験と伝統は、これからのクラブのメンバーたちにとっての指針となるでしょう。

■グループミーティング

1 テーブル ファシリテーター 桂

米山会員より卓話の後、グループミーティング



2 テーブル ファシリテーター 中山

福島会員より卓話の後、グループミーティング



3 テーブル ファシリテーター 佐藤友美

見延会員より卓話の後、グループミーティング

